

暮 Art de Vivre

跡見学園女子大学生活環境マネジメント学科

ら
し
ゆ
た
か
に
04

RE100(再エネ100%電力の取り組み) **カーボンニュートラル**は2050年温室効果ガス排出実質ゼロを目指すこと次世代タンパク質としての**昆虫食**パリのシャイヨー宮にはフランス**国立建築遺産博物館**がある生体リズムと**時間栄養学**ゆりかごからゆりかごへ**ミュニシパリズム(地域主義)**ラベルレスのペットボトル**Re-Cotton Re-Nylon**ミース・ファン・デル・ローエの**バルセロナ・パビリオン**の**ミニマルな構成と静謐さ**「手前どり」文化庁国立近現代建築資料館**無添加住宅**で住まい手の健康と地球にやさしい生活を絶滅危惧種**ニューロマーケティング**異業種で構成された**アミューズメント複合店**の伸長まちづくりは人づくり空き家活用で向こう**8年間**は**新築が不要**農場から食卓にわたる**フードチェーン デジタルエコノミー**パンデミック「**フェーズフリー**」**フードテクノロジー**の新潮流**フェイクニュースとフードファディズム**海洋プラスチック汚染**ケリングのEP&L**自然とともに暮らす**センス SoundUD**で**情報のユニバーサルデザイン化**統合報告**SHISEIDO**のプロジェクト「**Sustainable Beauty Actions**」ピーター・ズントーはヴァルス・スパの**建築に地元産片麻岩**を使用ケリングの「**ウーマンインモーション**」は文化産業に貢献する女性に光を当てるプログラム**ジェボンス**の**パラドックス**テラサイクルの**容器再利用事業 Loop**



着物と

サーキュラーエコノミー

着物の仕立て替えは、近年注目されているサーキュラーエコノミー／循環型経済と同じ発想です。元来着物は財産で貴重でしたから、傷んだ部分を直すように仕立て替えていました。更に子供の着物や玩具や布団とし、末にはおしぼりや雑巾となります。使いきって燃した灰は畑の肥料に、そこに種をまく。究極の循環なのです。



『暮らしゆたかに』は、生活環境マネジメント学科のコンセプトブックです。

私の研究室 深町浩祥

1 デザイン・アートで未来を創造する

1 研究テーマ

学生時代に、空間演出デザイン(店舗設計・舞台美術)、都市工学(情報・建築デザイン・環境)、服飾デザイン／パターニングなど学びました。本学着任前は、ファッション企画会社、現代芸術・音楽を扱う文化芸術財団の学芸員として主にデザイン・アート分野でのキャリアを積んできました。そのような実務経験から、現在の研究テーマは、デザインやアートをとおして人々を繋ぎながら社会的課題を解決し、未来の生活環境を考えることです。

研究室のゼミ生は、服飾デザイン、空間演出デザイン、メディアデザインなど、デザインの要素を含んだマネジメントに興味をもち、それぞれの研究課題に取り組んでいます。



ふかまちひろよし ● 修士(経営学)、ファッション企画会社、現代芸術の学芸員を経て2017年より現職。「ファッション商品企画」、「テキスタイル職」などを担当。



2

一枚の布との出会い

ファッション企画会社では、ファッションに関わる多くの業務を経験しました。例えば、海外輸出向けのテキスタイル(繊維素材)の企画開発、ファッションブランドの設立やファッションイベントの企画運営、それに伴う服飾デザイン、ショー会場や店舗の空間デ

ザインに携わりました。毎年、国内外へのリサーチを行い企画を立てるのですが、ある時、ネックウエアの輸入販売企画のためにインドに行った際、衝撃的な出会いがありました。それは世界最高と言われる一枚の布「カシミヤシヨール」との出会いでし

た。触れた瞬間に感動を感じるほどのエアリー感とウォーム感。皮膚が弱くウール(羊毛)のハイネックやマフラーを身につけることができなかった私は、初めて目に巻ける布と出会いました。素晴らしい布に触れたとき、とても幸せな気持ちになることを実感し、それ以来、布が持つ魅力と奥深さに興味を抱くようになりました。一着の服がそれを身にまとう人の生き方を変えることがあるように、一枚の布が私の人生を変えた瞬間でした。

3

テキスタイルとSDGs

地球環境問題が現在ほど一般の人々に認知される前、都市工学を学んでいた1998年にL.L.C(ライフサイクルコスト)やL.C.A(ライフサイクルアセスメント)についてリサーチを行い、廃棄物処理やリサイクルの重要性を意識するようになりました。当時から建

築や服飾の分野では、廃棄物の軽減や持続可能な商品開発が課題となっていました。私は服飾分野でもっともSDGsに寄与できる産業のひとつはテキスタイル産業だと考えています。服においては、デザイン要素である色、柄、光沢、シルエツト、そして、機能的要素である剛さわりや吸湿・吸水、保温効果など、テキスタイルの製作技術に依存しています。

日本のテキスタイル業界では、リサイクル可能な繊維素材の開発、環境負荷の少ない染色方法など多くの取り組みを行っています。世界的に認知されている欧米の高級ブランドも日本の優秀な環境配慮繊維素材を利用して、環境負荷の軽減にむけて努力しています。服におけるデザイン性・機能性・持続可能性を理解するためには、テキスタイルへの理解を深める必要があります。



4

創造的な未来のために

本学ではファッション商品企画やテキスタイル論などの講義を担当しています。ファッションとは「流行」という意味をもちます。流行は、服だけでなく、さまざまな分野にみられる現象です。例えば、音楽、アニメ、映画、アート、食品、家電、インテリアなどにも流行があります。そして、それらの流行は相互に関連していることに気づくことが重要です。

商品企画では、未来のために何を創造するべきか考えていきます。さらに企画立案に向けて時代の先を見通す能力が必要です。そのためには、服とは直接関係ないと思われる分野への洞察と現代社会の分析力も必要となります。限地となるテキスタイルの色や柄を例にとると、そこには宗教性や民族的アイデンティティ、社会的地位や織りや

編みの技術的特質など、分野横断的な要素が含まれています。それらの要素をしっかりと把握して企画を立てていかなければ、社会的な問題を引き起こすことになりかねません。服に限らず商品企画をする上では、商品を製作する技術的知識が重要です。しかしながら、それ以上に宗教学、芸術学、美術、デザイン史、異文化理解、経営学、社会学など、現代社会の潮流を理解するための幅広い知見を学ぶことが重要といえます。

学習方法の多様化とAI技術の発達によって、デザイン・アートの知識や技術を身につける時間は短縮することができますようになりました。本学に入学するみなさんには、大学生活のなかで自分の可能性の幅を何倍にも広げること挑戦してほしいと思います。



別冊「ファッションデザイン101のアイデア」編集後記「世界へ広がるJAPAN FASHION」本書のケール・ジャパンをづくる人たち」いづれもフィルムアート社 (2011年)



コロナ禍を越えて……

2年に及ぶコロナ禍は、学生生活を一変させ、就職事情にも影響を及ぼしました。就職1年目にしてリモートでの研修、昨年は企業説明会も面接もリモートと初めて尽くし、しかし跡見のハイカラさんは、いつも明るく健やかです。

オフィスワークに店舗経験を生かす

壇谷まい 2020年卒業
株式会社イ・ネット エグゼクティブ



桌上型画像、ハンディターム、マスキング、ブルーでデスクワークは快適!

さまざまな視点からファッションを学びたいと思い、深町ゼミに所属しました。就活の時期はコロナ前でしたので、対面で行うことができましたが、残念ながら卒業式は感染予防のため中止となりました。そして、こだわりのあるモノづくりをしている株式会社イ・ネットに総合職として入社しました。

入社後は、コロナの影響により本社での研修ができなくなり在宅研修として店舗マニュアルなどの

修得に取り組みました。そのような状況の中で、果たして社会人になったのか、いつ店舗営業が再開されるのかと不安な日々が約1ヶ月半続きました。その後、ようやく時短による営業が再開され、青山にあるカバン・ド・ズツカで店舗経験を積むことができるようになり、会社の一員となったことを実感しました。店舗での接客は、お客様がマスクをなさっていますので、お顔や表情を読み取ることが難しい面がありましたが、円滑なコミュニケーションがとれるように心がけました。

2年目は、店舗での経験を踏まえ本社生産管理での勤務が始まりました。生産管理では、デザイナー、パタンナーなどの仕事を把握して、生産量や納期、コスト調整など幅広い業務を行います。その際、ゼミで染色・編織・縫製工場など複数の生産の現場を訪問した経験が、一連の業務のイメージをつか



お気に入りのHofbauer製ノートには、大学時代の学びの全てを記録している

むことに役立ちました。現在は生産だけではなく、デザイナー、パタンナーの担当者から多くの専門的な知識を学び、店舗で得た経験や知識をいかして業務にあたっています。アパレル業界は華やかな印象がありますが、裏から支える生産管理部門の幅広い業務に携わることで、ビジネスの奥深さや新しい魅力を感じています。

3年目を迎え、さらにお客様から愛されるファッションを提供できるように、会社の一員として貢献できるようにしたいと考えています。

自分らしい仕事の工夫はゼミ仕込み

渡辺のりこ 2021年卒業
日産自動車株式会社 車山本舗



ゼミ選びでは、人気の石渡ゼミに入る事ができました。コロナ以前の3年ゼミでは、2020東京オリンピックを自指し、訪日外国人に向けた英語版の熱中症対策ハンドブックを作成し、予防啓発イベントを開催しました。4年になるとコロナの影響で、対面での活動が制限されました。プロジェクトリーダーとして、オンラインで活動していると環境省後援による「ひと涼みアワード2020」のオンライン啓発部門で最優秀賞をいただきました。

コロナの影響で就活は一変、ほとんどオンラインに切り替わりました。現在の会社は最終面接が対面でしたから、思いの丈を告げしすると「説明が上手」とのお褒めいただき、見事合格。ゼミの先輩へ何度もプレゼンテーションしたおかげと感謝しています。

自動車の販売ですから対面が当たり前です。初年度は1ヶ月間ソーシャルマナーや商品知識のトレーニングに始まり、現在の店舗に配属されました。まずカタログを熟読し顧客様とのコミュニケーションに勤めました。コロナの影響で頻繁にお目にかかれないの

で、毎月初週報告の手作りチラシを、顧客様のご自宅にお届けに上がったりと、お送りしています。これまで培ってきた自分流の成功例をもとに、2年目は仕事の土台作りの年にしたいと考えています。専業主婦を目指していたわたしが、ゼミの影響で仕事に目覚め、ずっと仕事を続けたいと思うようになりました。



お客様とのコミュニケーションの大切さを日々感じている渡辺のりこさん

手探りの1年間、2年目は期待感へ

平松くるみ 2021年卒業
住友生命保険相互会社 東京営業部 岡本支店



実は入学当時は、観光デザイン学科に所属していました。プライダルの仕事に憧れていたからです。ところが授業が始まり、赤松先生の家政学を受講すると自分が学びたいことは、むしろ生活環境マネジメント学科にあると気がつきました。跡見には転部転科という制度があり、通常より多くの科目を受講しなければいけませんが、それをクリアして無事生マネの学生になりました。最近メディアでもよく取り上げられている環境について学べる宮崎先生のゼミに入りました。

コロナ禍での就活は、オンラインでの説明会、面接と、自分が知っているスタイルとはまるで違うことに戸惑い、なかなか先へ進むことができませんでした。ところが、就活先に知り合いの方がいらして、(現在の上司なのですが)リラックスして面接を受けることができ、内定をいただきました。

1年目は、コロナの真只中でした。研修では、保険の仕組みについて学び、その全てを説明できるようにになることでした。3ヶ月の研修の最終課題が、話を聞いてくださる身近な方にアポイントを取り、保険について説明をすることでした。卒業間もないので大

人の知り合いといえば、大学でお世話になった先生か悪い評判が、ある先生にお時間をいただきました。保険の説明をしました。ゼミの時に怕大学とのプレゼン交換会を行った成果を発揮することができ、胸を張って下ろしました。

1年目は上司のアシスタントとして企業を回りましたが2年目からは一人営業するということになりました。新たな挑戦が始まります。



社員一人ひとりに声をかけられるには、仕事に慣れたアポイントを取りたい。

いまは学生

みなさんは、「女子大生」と聞いてどのような姿を思い浮かべますか？
 大学にはどんなバッグで何を持って行っているのでしょうか？
 今回は赤松ゼミの4年生にバッグの中身を見せてもらいました！
 大学生になるとお化粧を始めたたり、時間割が不規則になったりと、高校とは異なる生活になるのも、それがバッグの大きさや中身にかなり影響してきます。
 高校生と同じものはあるか、どこが違うか、実際に見てみましょう！



おしゃれなミラーやコスメに化粧ポーチ、メイク関連のアイテムに加えて、コロナ禍になってから、携帯型消毒液や手洗剤防止のハンドクリームを持ち歩くようになったそうです。



ゼミにだけ出席する日は、小さめバッグやポシェットもOK！バリエーションがカラフルで個性的。マイボトルやエコバッグを持ち歩いているのはさすがゼミ生の学生ですね！



住生活の中から環境につながる問題を見つけ解決策を提案する

赤松ゼミでは住生活の中から問題点を見つけてます。そしてオリジナルの改善策をまとめるために障書の疑似体験や、関連文献及び論文の輪読、ディスカッションを実施します。まとまったアイデアはポスター、パンフレット、模型手として具体的に

表現します。今回紹介するのはオンラインでの授業や採用面接が受けやすい部屋をテーマとした模型作りです。自分たちの経験を踏まえて不便な点を抽出後、それらを改善した理想の空間をグループに分かれて設計、作成しました。

高校生時代に持っていた大学のイメージと実際の大学生活

入学前は「自由が多そう」「サークルが楽しそう」「アルバイト時間も充実しそう」という行動範囲の広がりや期待する気持ちと、「制服がなくなるので洋服選びが大変そう」「課題が多くて大変そう」などの不安が交錯していたようです。

実際には1、2年生の間は必修科目が多く時間割の制約も多かったり、コロナ禍で思うようにサークル活動ができなかったりもしましたが、「おしゃれを思い切り楽しめた」「アルバイトを通じて交友関係が広がった」「課題を通して文章力やパソコンスキルが身についた」など充実した日々を過ごせたようです。中でも「SDG5、CSR、ESG」など企業や組織の最新の取り組みについて詳しく学んだことを、就職活動で人事の方から評価していただけた」というコメントが印象的でした。



資料調査や授業に必要なお道具は、大学の備品で揃えたり、自分で調達したりしています。

模型の材料や作成に必要な文房具は、大学の備品で揃えたり、自分で調達したりしています。調子よく使うと、材料の中から予備も考え、最も効果的な使い方に再考できるものを選びます。



カラーコーディネートも行います。色紙や、マーカーペンを初めに持ち寄ってイメージ図を描いては修正し、を繰り返して仕上げます。

ほぼ全員が初めての模型作りとなりますが、教員の指導を受けつつ楽しく作り進んでいます。

ウズベキスタン、イラン、トルコ、モロッコ、シルクロードの果てまで、チャイを飲み人と請らう文化があります。チャイはお茶のことを言い、地域により少しずつ味も濃さも異なりますが、たいていは濃くて渋く、鮮やかな色の紅茶です。モロッコはミントティーで、ミントの茶葉を煮出したものも、ガラスのカップに直接ミントの葉をぎゅうぎゅうに入れ、熱湯を注ぐものもあります。

イスタンブールのバザールで土産物屋を冷かしているとき、お店では「よく来たね、座って」と椅子をすすめられ、頼んでいないのにアツアツのチャイが供されます。あっといふ間に、取っ手のないガラスのカップになみなみとチャイが注がれます。思わぬ贈り物や商品を買われるかも…と警戒しながらも、せっかくなので厚意だからと慌てず飲もうとすると、ガラスのカップは熱すぎて触ることもできません。

売り手はその様子を見て「まあ、ゆっくり冷めるのを待ちましょう、ところでどこから来たの？日本？神戸なら知っているけど…」と世間話が始まります。

「あなた、神戸のサトウさん知ってる？」知っているわけないのですが、これが会話の糸口になります。「サトウさんは知らないけど、神戸は行った事ありますよ、私は東京から来ました」。

「トルコにはいつ来たの？」「10日前です」「今までどこを旅していたの？」「イスタンブール、ブルサ、イズミール、エフェソス、コンヤ、バムッカレ、カッパドキア…で、またイスタンブールに戻って来ました」「え、コンヤは私も行った事ないよ、何しに行ったの？」「古いイスラム建築を見たくて…」などと話し込んでいくと、アツアツのチャイもようやく少し冷めてきます。

チャイはカップを置いたげに離れ足され、延々話は続き、親切だし楽しかったから、お土産をこの店で見繕うかな。「おじさん、これとこれ、2つ買ったら幾らかな？」「そう？じゃあ5つなら幾らになる？」と、今度は価格交渉で話し込むことになります。

商品には値段の表示が貼り付けてあり、客はそれで価格を確認し、無言でレジに行きお金を払ってさようなら、という買いもの仕方ではないのです。時間はかかり面倒くさいとも言えるのですが、コミュニケーションってこういうことだよ、と思わされます。私の家にはそんなシルクロードの各地のお土産が転がっています。



アツアツのチャイが冷める頃には
村田あが



村田あが ● 著者 (1971年 -)、建築設計事務所「日建設計」に入社。2007年、東京大学大学院で「都市計画」の修士号を取得。2010年、東京大学で「都市計画」の博士号を取得。現在は「日建設計」で勤務中。

生活環境マネジメント学科

Department of Life Environments Management

衣食住の環境が健全に維持管理される学問を基本に捉え、それを支える地域、消費経済社会、国や地方公共団体、国際社会における環境維持活動を生活環境マネジメント学科では学びます



写真一列目左より宮崎正浩教授/環境政策、村田あが教授/住居環境論・都市環境論、二列目左より天海弘准教授/フードマーケティング、食品工学、石塚正敏教授/保健医療経済学、公衆衛生学、衛生行政学、三列目左より石渡尚子教授/健康栄養学、食生活学、横井由利准教授/衣生活と環境、衣服文化、四列目左より深町浩洋准教授/ファッションビジネス、赤松瑞枝准教授/住生活、福祉住環境、住宅政策

「暮らしゆたかに」Art de Vivre 第4号 2022年4月3日発行

発行：麗見学園女子大学 生活環境マネジメント学科

〒352-8501 埼玉県熊谷市中野1-9-6

Tel: 0484784110

URL: <http://www2.rmc.ac.jp/~life-environment/>

発行人：村田あが

編集：赤松瑞枝、横井由利

デザイン、写真：thida



私たちのSDGs「使う責任」はこんなモノです

石渡尚子 いしわたなおこ



近年、プラスチックごみから生まれたマイクロプラスチックの海への流出が問題となっています。また、プラスチックごみは土に還ることもありません。使い終わったらすぐに捨てられる食品用ラップはプラスチックでなければならないのでしょうか？抗菌性を持つ蜜蝋ラップは、食品を密閉することなく鮮度を保って保存することができます。洗って繰り返し使える蜜蝋ラップを一度使ってみませんか。

宮崎正浩 みやまきまさひろ



木造注文住宅メーカーであるアキュラホームは、森林保全と海洋プラスチック汚染対策に資するものとして、木のストローを開発し、商品化しました。カンナの削り屑を巻き上げて作るもので、消費者が自ら作成するキットも販売されています。これは、材料として間伐材を利用することで日本の森林管理に貢献し、また、プラスチックストローの代替品として海洋汚染防止にも貢献します。

天海弘 あまかいひろし



「大豆ミート」、最近マスコミなどで取り上げられることも多く、お刺しになった方も多いかと存じます。もとはベジタリアン(菜食主義者)の方が買われていました。最近では肉に比べ環境にやさしく健康にもいいことから、スーパーにも並ぶようになりちょっとしたブームになっています。写真のから揚げのほかハンバーグなどの加工食品も、販売されていますのでお試しください。

横井由利 よこいゆり



ミラノの老舗ブラダは、サステイナブルなブランドの取り組みのひとつとして、漁網や世界中の海から回収されたプラスチック、産業廃棄物ナイロンなどから製造した再生ナイロンECONYL®を使用したバッグやウエアの販売を2020年に「Re-Nylon」プロジェクトとしてスタートしました。翌年には全てのナイロン製商品にECONYL®を使用し、環境への配慮に力を入れています。©ブラダ